

令和6年度第1回我孫子市まち・ひと・しごと創生有識者会議（A分科会）
議事概要

開催日時	令和6年7月26日（金）午前10時00分～12時00分
開催場所	我孫子市役所 議会棟 第一委員会室
出席者	委員：熊田副委員長、遠藤委員、大炊委員、山内委員、門脇委員 事務局（企画政策課）：吉岡課長、河合課長補佐、鈴木主任、岡村主任
公開／非公開	公開
傍聴人	1人

【議題】 令和5年度施策評価について

◎基本目標1 あびこを支える産業を応援し、いつでも働けるまちづくり

○施策名称：4-2 就労支援の充実

<発言要旨>

委員：地域職業相談室で開催したセミナーの参加者が多かったことの原因をどのように捉えているか。

事務局：新型コロナが落ち着きを見せたことでセミナーの回数が増えたことや就職の意向を持つ人が増えたこと、世の中全体で求人の需要も増えてきたことなどから、結果として就職の割合も向上したものと考えられる。

委員：現場の感覚として、現在倒産企業が増えており、新たな職を探している人が増えていると考えられる。また、柏、我孫子エリアでも賃金アップが進んでおり、今まで遠くで働くことを選んでいた人たちが近場も選択肢に入ってきたのではないかと感じる。さらに子育て中の方が、就労していないと保育園・幼稚園に入れにくい。そういった様々な事情も市として把握しておく必要がある。子育てのことであればB分科会の所管であるが、この有識者会議はA分科会とB分科会それぞれ独立しているわけではなく、全体で進行管理を担っているはず。もう少し深いところで分析が必要だと感じる。資料に落とし込んでもらえば、説得力が増すのではないかと感じる。

委員：事業者が取得できる国の認定制度について、担当課のコメントでは周知が行き届いていないことが未達成の要因とされているが、私の会社でも検討しているものの、厚生労働省が設けるこれらの制度は非常にハードルが高いと感じる。経済産業省のSDGsやCO2削減などの認定制度の方が取得しやすいように感じて

いるが、認定を受けるメリットはどのようなものがあるか。

委員：利益的な部分のメリットは直接的にはないが、企業価値を上げるイメージ戦略として機能しているものであると認識している。市が子育てや女性の活躍などに力を入れていくのであれば、賛同する企業を増やしていく必要がある。

委員：金融機関では認定を受けた企業への融資における優遇措置などがあるものの、認定にかかる企業側の手間や負担が非常に大きいという声は聞いている。

委員：市としては、認定事業者数ではなく、国の制度を市民に対して認知度を上げていく取組を指標とすべきで、積極的なPRが必要と考える。

委員：障害者就労支援センターに登録している障害者のうち、一般就労への移行者数が目標値より大きく下回る数値となっている。就労支援センターを利用せずに直接就職するケースが増加したことを理由にしているが、直接就職した方の人数は把握しているか。

事務局：就労移行支援事業者などと連携しているが、正確な人数までは把握できていない可能性がある。就労に向けたアプローチの手段が増えているため、目標値の設定について検討していく。

<施策の評価>

「良好とはいえない」とした。

○施策名称：4-3 商工業の振興

<発言要旨>

委員：商店街団体等への支援について、新規の取組みに対して補助額を上乗せする提案を他の自治体に行ったことがある。マンネリ化を解消するために、定期的なてこ入れはすべきと考える。

委員：市内の事業者数の数について、170件程増えているが、新規で事業を始めた数、廃業した数を把握しているか。インターネットを活用したスモールビジネスを行う方が増加していることは理解しているが、事業者の業種や規模を含めた事業者の分析をすべきである。

事務局：業種や規模など事業者の正確な実態把握はできていないため、今後の課題としていく。

委員：市の融資制度の新規融資件数が伸びていないが、車両など残価設定での設備投資も増加傾向にあるため、新規融資が増えていないから設備投資を進めていない、という判断は一概にはできないのではないか。

委員：創業支援等事業や融資制度の目標達成に向けて周知方法を検討していくとコメントがあるが、広報やチラシ配布だけでなく、商工会と連携した具体的な取り組みが求められる。融資制度は多様化しており、市の制度である利子補給もメリットはあるものの、手軽に活用可能なメニューに比べると劣勢とも言える。

<施策の評価>

「概ね良好」とした。

○施策名称：4-1 企業立地の推進

<発言要旨>

委員：柴崎地区産業用地の新たな造成は、当初想定していた事業スケジュールでは進めることが困難であり、計画自体も先が見えていない状況であるので、この指標は変更せざるを得ないとする。

<施策の評価>

「良好とはいえない」とした。

○施策名称：4-4 農業の振興

<発言要旨>

委員：農地の集積は指標としては未達成だが、現在農政課が地域における担い手の整理を進めていると聞いている。また我孫子市は新規就農者を手厚くサポートしているので、今後もバックアップを続けてほしい。

委員：直売所売上額を指標としているが、物価高でどこでも売上高は上がっている。レジ通過者数が減少していることを考えると良い状況ではないと思うので、売上金額ではなく、正しく評価できる指標を立てるべきである。

委員：レジ通過者数や利益率など、別の指標で評価すべきと考える。

委員：新規就農希望者に対して営農計画や農地の賃貸借までサポート体制を実施したとあるが、新規就農者にアンケートを取り、市が行ったサポートとその感想を公表することで新規就農者の増加につながるのではないか。また、加工品に関しては、他地域の加工品を参考に新商品を開発すべきである。

委員：地域によっては農協主導で新たな農産物の拡大や加工品のアイデアなど農業振興策を出していたりするが、我孫子市内には農協の支店がなくなったことで、農家が受けられる支援は薄まっていないか。

事務局：農協が市内から離れたことで農家にも市にもマイナスな面はあるが、手賀沼を挟んで柏側に支店があるため、市としては引き続き連携していく。

委員：東葛地域では、柏＝カブ、松戸＝ネギという売りがあるが、我孫子市はブランド的な農産物はなく、少量多品種を推している。新鮮さや珍しい野菜などを求める近隣のレストランなどにニーズがあると考えられるが、地元野菜を使うことだけでは、地元以外の顧客にはそこまで魅力的ではない。農政課のサポート体制として、販路の支援を強化することで、市内農業者の活性化を図れると考えられる。

<施策の評価>

「概ね良好」とした。

◎基本目標2 あびこの魅力があふれ、にぎわいを生む

○施策名称：5-2 住環境の保全とまちなみの魅力向上

<発言要旨>

委員：市営住宅の入居率について、所管課のコメントで工事や修繕の影響で目標を達成しなかったとあるが、その分析は妥当なのか。部屋が空いているのに応募がない状態の部屋があったとすれば、所属長コメントに記載の常時募集により改善を図ることなどを今後の展望として記載すべきではないか。

事務局：設備修繕の対象となっていた市営住宅は数件であったと思われるため、評価コメントについては担当課にフィードバックする。

委員：市営住宅の入居条件はどのようなものか。セーフティーネットのような位置づけ

か。また、外国人人口が増加しているが、市営住宅に多いと聞く。実情を教えてください。

事務局：ご理解のとおりセーフティーネットの位置づけで、市営住宅を設けている。外国籍の方は、市営住宅より公団の団地に入居されていることが多い。

<施策の評価>

「良好とはいえない」とした。

○施策名称：5－5 利用したくなる公園の整備

<発言要旨>

委員：この施策自体が利用したくなる公園づくり、安全・安心に利用できるための維持管理を目的としているならば、設定されている3つの指標では評価しづらいものになってしまう。未達成の項目が多い中で、課長の評価コメントに記載されている概ね目標を達成したとは評価できない。

委員：公園の維持管理はお金がかかることが多いが、設備の定期点検を行い、地道な取り組みがあればその点を報告してほしい。

委員：公園面積の維持をすることが目的であれば、何もしなくても目標達成となる。行政の取り組みを評価すべきであるので、公園への巡回回数やアンケートの結果などを活動指標にしてはどうか。

委員：安全安心に利用できる維持管理を中心にしながらも公衆衛生面では必ず守らなければいけないこともある。市民ニーズを的確に捉えるためにも、所管課が公園の役割を考えた上で、来年度は行動目標などを指標として設定してほしい。

事務局：今回のご意見を所管課に伝えた上で、別の指標設定について検討していく。

<施策の評価>

「良好とはいえない」とした。

【その他事務局連絡事項】

・本日の会議で基本目標2の5－5まで評価が完了したため、第2回の会議において、

基本目標2の6-2から引き続き評価をお願いしたい。

- ・国のデジタル田園都市国家構想交付金を使い、商業観光課がスマートサイクルの導入を進める予定があり、事業実施後に本会議においてKPIの達成度について効果検証をお願いしたい。まずは、次回の会議において事業説明をさせていただく。

以上